

閉校式典を控えて

校長 白濱 卯しらはま しげる

今年もまた、豊穰の季節を迎えている中里です。校舎の周りの水田にも、黄金に実った穂が頭を垂れ、豊作の気配を見せています。岩木川の河畔では、稲刈りがあちこちで始まり、黄金の絨毯もまもなく姿を消しつつあります。青森県では、9月1日から9月30日迄の1ヶ月間、「青森県新型コロナウイルス感染症緊急対策パッケージ」の結果、感染者が減少してきているところです。当初、閉校式典の開催も危ぶまれましたが、何とか開催の方向が見えてきており、いよいよ10月2日（土）の閉校式典を迎えます。

つきましては、式典では時間も限られており、この場をもって校長として皆様へ開催の経緯等をお伝えしたいと思い、挨拶を更新したところです。

先ず以て、創立以来46年間にわたり、中里高校にいただきました御恩と御支援に対しまして、心から御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の蔓延がなければ、これまで御支援・御協力をいただきました地域の皆様、卒業生の皆様、旧教職員の皆様など、多くの皆様へ御案内をさせていただきまして思い出の会を開催するとともに、中里高校の閉校に思いを馳せていただく予定でした。しかしながら、現在の状況を考慮すれば、参加者を限定したうえで、万全の対策により式典を開催することが、最善であると確信いたしました。一部報道にあるように、去る9月14日の実行委員会では、実行委員の皆様へ御了承を得たところです。

本来であれば、これまでの中高の歴史を辿る記念展示などをおして、本校の歴史を振り返っていただくつもりでしたが、新型コロナウイルス感染症への対策として、展示は一切行わないことにしました。また、接触を極力避けるため、配慮が行き届かず御迷惑をおかけすることと存じますが、何卒御理解と御協力をいただければ幸いです。

最後に、中里高校の閉校は3500名を超える卒業生に少なからずの心配をおかけしたと思います。しかし、皆様卒業生こそが中里高校が確かに存在した証であり、これまで本校の教育に携わった者の生きた証であります。これからも、中里高校の卒業生であることを誇りに、社会に貢献して欲しいと思います。

しかしながら、本当に残念でなりません。